

★親子で星空さんぽ★

第9夜「月と惑星のお話」

～ 今夜のテーマは私たちの生活と関係のある月と惑星のお話しのです ～

いよいよ「親子で星空さんぽ」もあと2回となりました。今回は、CDで「分光器」を作り、電球の見え方のちがいをみて、少しむずかしいお話しでしたが「光」と「色」のことを勉強しました。さて、今夜は月と地球の仲間である惑星のお話しです。月が形をかえることや金星・火星・木星・土星のふしぎなお話しします。

■身近な天体「月」のふしぎなお話し

月は地球のまわりを回る衛星(えいせい)と呼ばれています。月の大きさは地球の約1/4で、太陽系内にある衛星では5番目に大きい星です。ほかの衛星にくらべて、月が地球の大きさの1/4なのは大きすぎると言われています。それは月の誕生に秘密があると考えられています。

●月のふしぎNo1 地球から見ると同じ側しか見えない？ 裏側はだれも見たことない

月が誕生したころは地球にとっても近いところにいましたが、約45億年くらいの時間がたち、今は約38万kmの位置にあります。これは遠心力によって地球からじょじょに離れていったのです。そして現在、月は地球のまわりを約29日で1回転し、同じ29日で自らも1回転しているので、同じ側しか見えないのです。

●月のふしぎNo2 月は毎日、見え方がちがう？ 月の満ち欠け

夕方に見える月は、三日月のときは西の空。半月は南の空。満月は東の空。と決まっています。西の空で見た三日月が、だんだん太くなりながら南から東へ毎日少しずつ動いています。満月(十五夜)をすぎると、今度は細くなりながら夜中から明け方にしか見られません。

●月のふしぎNo3 月の表面のでこぼこや大きなあなの正体は？

望遠鏡で月を見ると、穴のあいたクレーターを見ることができます。クレーターの正体は昔、彗星や小惑星が衝突したあとだと考えられています。

満月の前後に月を見ると、左側に少し暗くなった部分が見られます。ここは「海」と呼ばれる部分で、大昔の月にまだ火山があったころ、あふれた溶岩が広がって、冷えて固まったものだと考えられています。

■太陽のまわりを回る地球の兄弟たち

「水・金・地・火・木・土・天・海・(冥)」、太陽に近い順に惑星(わくせい)の名前をおぼえる言葉ですが、最後の冥王星は2008年に惑星の仲間から外れてしまいました。現在は水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星が惑星となっています。水星・金星・地球・火星を地球型惑星、木星・土星を木星型惑星、天王星・海王星を天王星型惑星と分けられています。

■次回2月19日(金)は最終夜、「月の写真を撮ろう」午後7時からです。

次回はお持ちのデジカメやスマホで月を撮影してみたいと思います。どうぞお楽しみに!!

最後となりますので、皆さん必ず参加してください。